

てその成績を明らかにする。このようなことを数限りなく行なったとき、100回に99回の割合で一信頼係数99%—それ等の成績のはいる範囲—信頼区間—を求め、この範囲の中に本県の標本の成績が含まれるか否かを調べる。

学校別教科別の国・県の成績

種別	区分	全 国		県		信頼区間
		平均	標準偏差	標本数	平均	信頼係数99%
小学校	社会	44.5	22.7	2,909	40.3	43.4~45.4
	理科	51.7	6.3	2,909	50.1	51.4~52.0
中学校	社会	41.2	19.4	1,408	34.6	39.9~42.5
	理科	47.7	15.2	1,408	43.4	46.6~48.8

小・中学校の社会・理科ともに、本県の平均点は信頼係数99%の信頼区間の中に位置していない。これは本県の成績が全国平均と有意の差をもって低いことを示すことになる。

(4) 個人得点の分布

これまでの県の平均的な成績を、国のそれと比較してきたのであるが、ここでは児童、生徒個々の成績についてその分布状況を眺めてみる。この場合にも国のそれと比較することが、本県の分布の状況を一層明確にすることと思われる。そこで全国学力調査結果の各教科の平均および標準偏差を基にして、学習の評価での5段階表示の方法にならって、各段階点に対応する得点の範囲を決定した。このようにして定めた各段階点への、国および県の相対度数分布は10表のようである。

5段階表示における相対度数分布

		1	2	3	4	5	計
小学校	社会 国県	4.8 7.5	30.5 36.3	33.1 30.8	22.7 17.1	9.1 8.3	100 100
	理科 国県	26.3 38.6	14.5 14.8	15.4 12.9	13.9 10.3	39.9 23.4	100 100
中学校	社会 国県	2.2 3.1	34.1 47.4	34.2 32.4	18.9 11.3	10.6 5.8	100 100
	理科 国県	4.5 6.8	27.3 35.0	37.7 37.0	21.7 15.7	8.8 4.8	100 100

学校単位の平均点の分布

		0~	5~	10~	15~	20~	25~	30~	35~	40~	45~	50~	55~	60~	65~	70~	75~	80~	85~	90~	95~	計	
小学校	社会 国県	0.2		0.8	2.0 1	4.5 5	10.0 6	14.3 5	17.0 3	19.7 2	15.1 4	8.8 2	4.8	1.4	0.7 1	0.5 1		0.2					100校 30%
	理科 国県			0.1		0.1	0.2	1.3	4.8 6	15.9 10	28.7 6	25.7 2	14.1 1	6.7 1	1.8 2	0.4	0.7 2		0.1		0.1		100% 50校
中学校	社会 国県		0.2		1.3	4.0 1	11.5 7	21.4 5	23.3 3	22.5 2	8.9	5.4	0.8	0.5		0.2							100% 18校
	理科 国県			0.3		0.2	1.0	3.4	14.0 6	28.7 8	32.3 4	14.8	4.7	0.7									100% 18校

国：相対度数，県：実数

◎小学校の社会では最頻数は、国が3点であるのに県は2点で1点少くなっている。最高点の5点の階級では、相対度数がわずかに、0.8%少ないのみである。

◎小学校の理科は国、県ともに不思議な分布を示している。5段階表示での標準的な分布は、1, 2, 3, 4, 5点への相対度数は7, 24, 38, 24, 7で3点が最も多く、それを遠ざかるにつれてその度数は左右対称の形を保ちつつ次第に減少している。

先のような異状な形は全国平均が51.9で、しかも得点が0点から100点に亘って分布しているにかかわらず、標準偏差がわずかに6.3という結果を導いた学力検査そのものに原因しているのである。

県の分布は国のそれと似てはいるが全般に段階点の低い方に傾き、最高の5点での度数は国のその58.6%にあたるに過ぎない。

◎中学校の社会の最頻数では国が3点、県は2点で1階級低く、また最高点では県の度数は国の度数の54.7%で、全般に段階の低い方に重みがかかっている。

◎中学校の理科は最頻数は国と同じ3点であるが、最高点ではその度数は国の度数の54.5%で前記の3者に比し最も少ない。

なお、10表から本県の児童・生徒は段階点の低い方のみ位置しているのではなく、全段階に亘って分布していることが判る。殊に小学校の社会のごときは、最高の段階における度数が国の度数の91.2%にまでおよんでいる。

このような結果から推して本県の児童・生徒の能力はどうかの問題に対し、何か一つの解答を与えてくれるように思われる。

(5) 学校単位の成績

本県の標本校相互の学力差の実態を捉えるために、全国の標本校ごとの平均得点の相対度数分布上に、本県の標本をそれぞれ位置づけると、下表のようになる。

本県の標本校の差異は、中学校に比し小学校に大きく、更に小学校の社会は理科より大きい。学校差が大きい小学校ではそれだけ全国の上位のものに近迫し、社会では全国の標本校で上位0.7%の中に1校が入っており、また理科では0.9%の中の2校を占めている。中学校は学校差が少なく全体がこじんまりとまとまっている